

あたごづか こふん 愛宕塚古墳

—重要遺跡現況範囲確認調査—

栃木県下野市国分

現地説明会資料 平成 26 年 12 月 20 日 (土)

栃木県教育委員会事務局文化財課

宇都宮市埴田 1-1-20 TEL028-623-3425

(公財)とちぎ未来づくり財団 埋蔵文化財センター

下野市紫 474

TEL0285-44-8441

はじめに

壬生・国分寺周辺の地域には、5世紀末から7世紀まで大型の古墳が集中しています。下野市国分寺に所在する愛宕塚古墳は、古墳時代後期に造られた有力者の墓で、県の史跡に指定されています。これまで愛宕塚古墳は発掘調査が行われたことがなく、詳細な規模や時期が明らかではありませんでした。そこで、栃木県教育委員会では、平成24年度から測量調査・確認調査を実施することにしました。

(1) 古墳の規模・形

古墳の規模 古墳の形は前方後円墳で、前方部を西南西に向けています。墳丘の途中に平坦面を設け、二段に構築されています。上下二段に土を盛る古墳は、栃木県南部に特徴的な形です。

古墳の規模は、周溝を含めた全長 98.5 m、下段の墳丘第一段の長さ 79.5 m、前方部幅約 62 m、後円部復元径 55 m、上段の墳丘第二段の長さ 44.5 m、前方部幅約 22 mでした。

古墳の形 この古墳は前方後円墳ですが、下段と上段はやや形が異なり、下段では括れがなくゆるやかですが、上段は明瞭に括れを造っています。このような古墳は先行する吾妻古墳にみられ、その特徴を継承しています。

(2) 墳頂部の須恵器甕

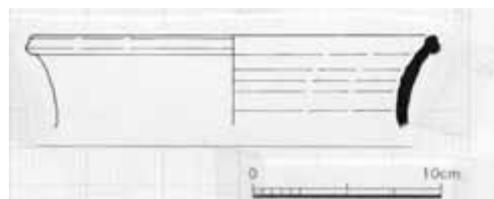
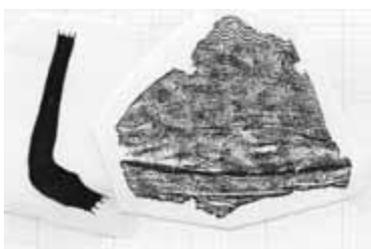
古墳の墳頂部では須恵器の甕の破片が出土し、複数の甕が置かれていたことが確認できました。この須恵器は東海地方や群馬県などで作られたものです。古墳時代後期には古墳に埴輪を立てていましたが、この古墳は埴輪を立てることを終えた後で、須恵器甕を置き始めた頃のものでした。



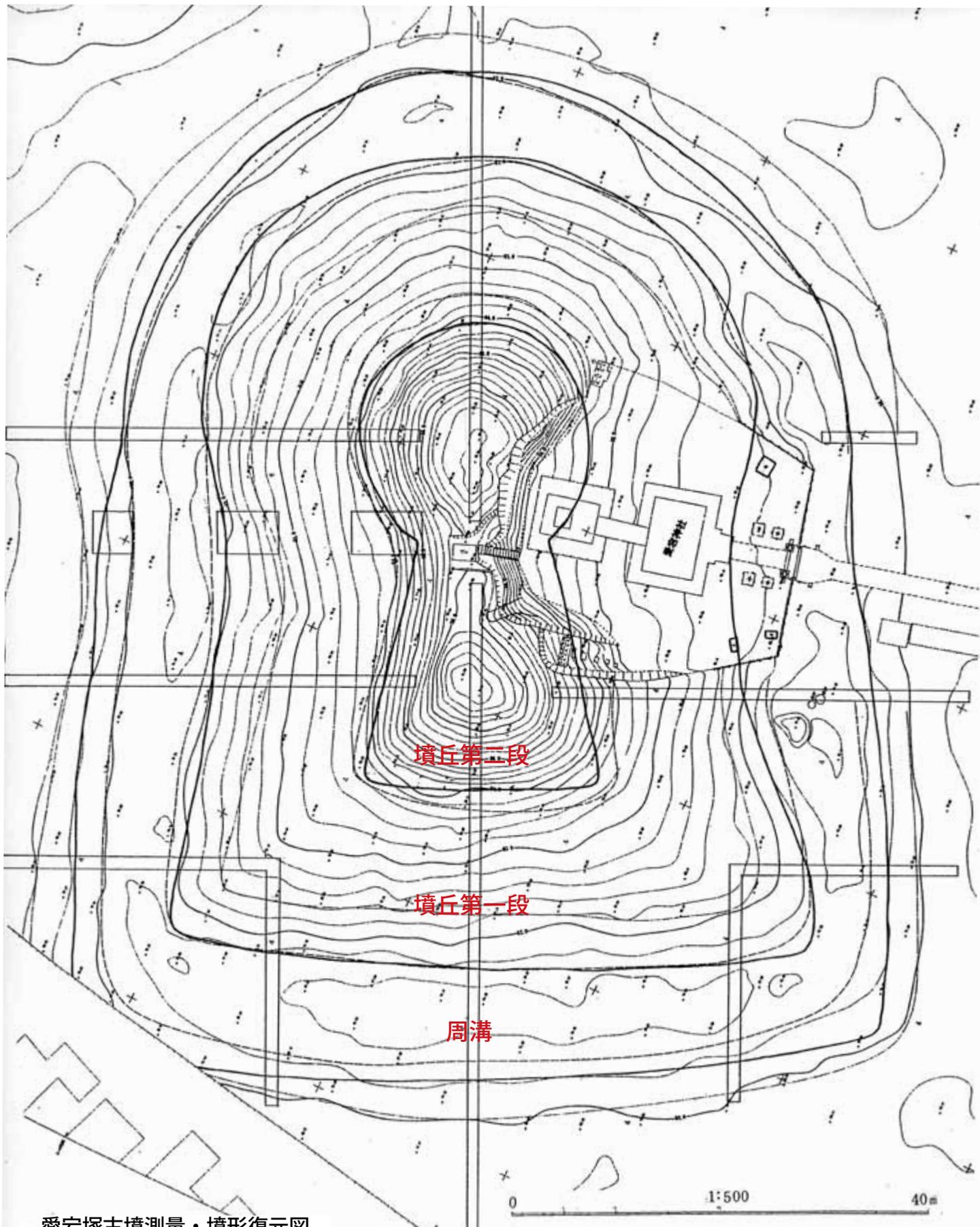
平成 25 年度調査 周溝土層



周溝土層 (2トレンチ)



括れ部出土須恵器 (確認調査時出土)



愛宕塚古墳測量・墳形復元図



後円部北側 (6) トレンチ土層



後円部墳頂須恵器出土状況



前方部 (2 トレンチ) 須恵器出土状況

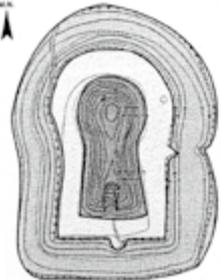
500年



まりしてんづか
摩利志天塚古墳



びわづか
琵琶塚古墳



あづま
吾妻古墳



かぶとづか
甲塚古墳



こくぶんじあまづか
国分寺愛宕塚古墳



さんのうづか
山王塚古墳



まるづか
丸塚古墳

下野南部の思川・姿川・田川流域の古墳群は古墳時代後期から終末期まで、特に大型の古墳が造られました。これらの古墳群はおおよそ、国分寺地域、壬生地域、壬生町羽生田地域、南河内三王山地域、石橋・薬師寺地域にまとまって分布しています。

これらの古墳は、墳丘の下段（第一段）に平坦な面があり、前方部や括れる部分に凝灰岩を使った切石で石室を造る特徴があります。

このような特徴は、吾妻古墳が最も古いと考えられています。愛宕塚古墳は、吾妻古墳に位置的に近く、その形を継承した有力者の古墳です。



みぶあまづか
壬生愛宕塚古墳



ちやうすやま
茶白山古墳



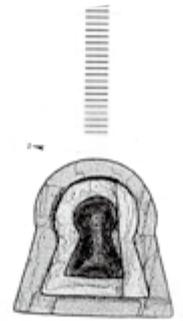
よこづか
横塚古墳



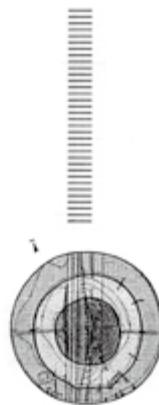
おわしやま
御鷲山古墳



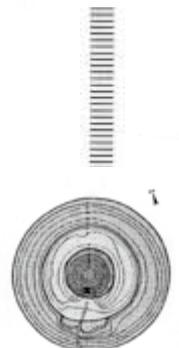
うしづか
牛塚古墳



ながづか
長塚古墳



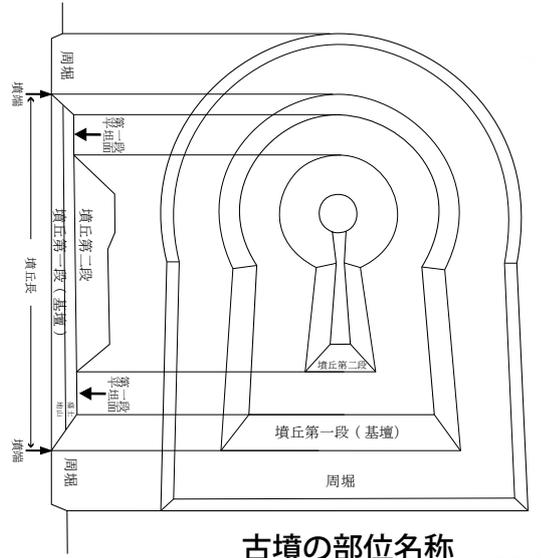
しもいしほあまづか
下石橋愛宕塚古墳



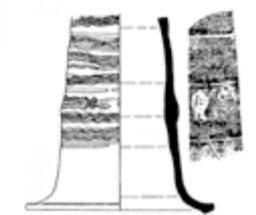
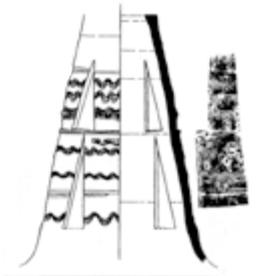
くるまづか
車塚古墳



とうかはら
桃花原古墳



古墳の部位名称

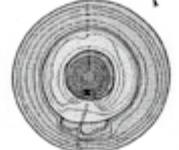


既発見須恵器

600年



まるづか
丸塚古墳



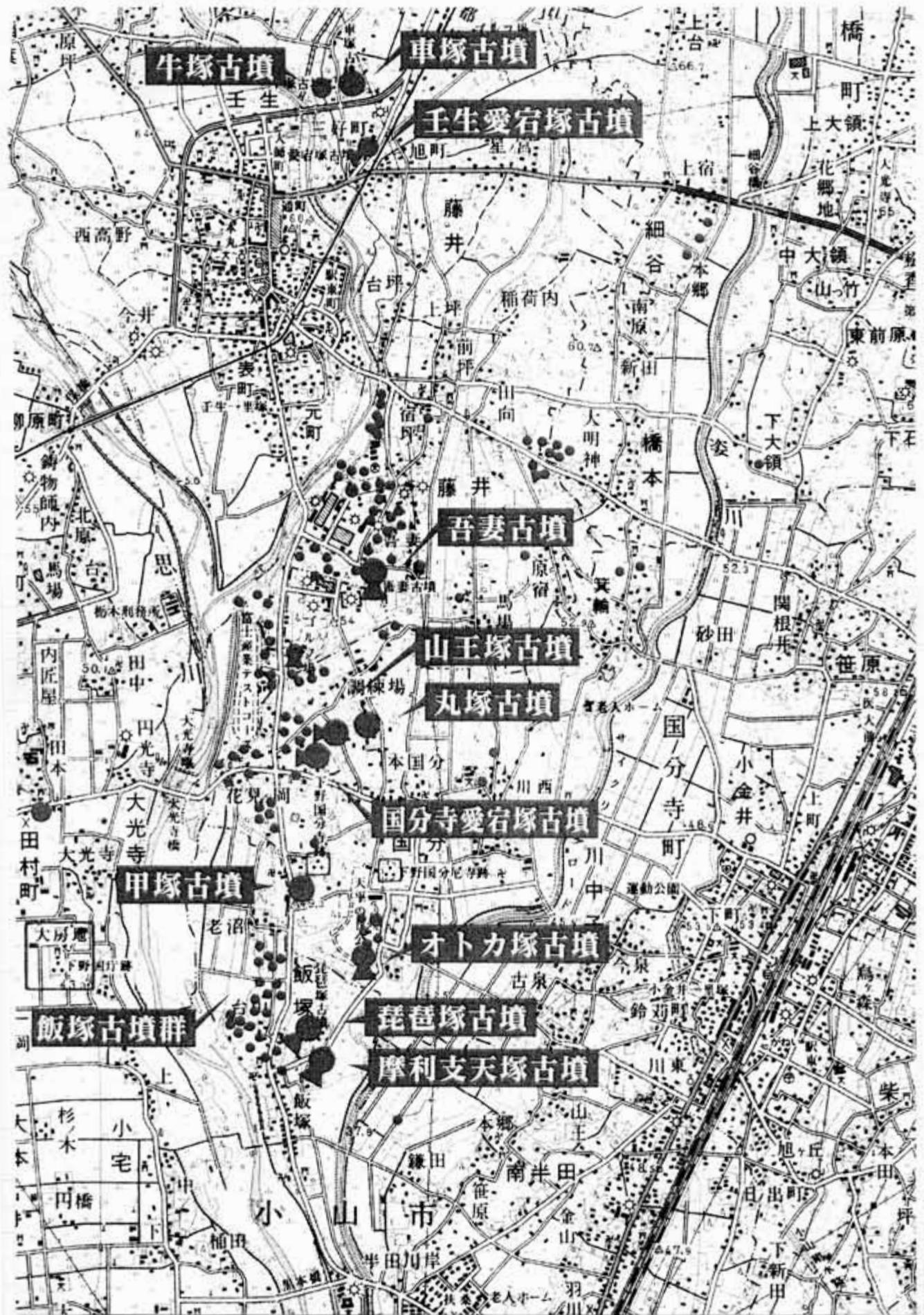
くるまづか
車塚古墳



とうかはら
桃花原古墳

1/4000
0 100m

※下野市教育委員会 2006『下野市周辺の古墳群』などによる。
周辺の古墳変遷図



壬生町・下野市・小山市域の主要古墳分布図

※下野市教育委員会 2006『下野市周辺の古墳群』などによる。